
浅羽家の日常

環

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

浅羽家の日常

【Nコード】

N8950A

【作者名】

環

【あらすじ】

両親が他界している、虐待を受けているなどの理由で浅羽家に引き取られた孤児達の、脱力系シリアス風味ユルユル青春グラフィティ。

十年前のある日

第一印象は…かったいい。第二印象は…

「あ、ママ！こっちだよ！」

マザコン！？

その時かなりショックだったのを今でも覚えてる。自分と同じか、それ以上の男の子がママといって親のもとにかけていく光景は、親のいない僕にとってはとても不思議なものだったのだ。

「千尋！」

「あ、小町ちゃん！」

この人は浅羽小町ちゃん。僕の親代わりの人なんだ。

「帰るよ」

「うん、ねえ小町ちゃん。僕マザコン？」

「どうしたの急に。もしかして、誰かに何か言われた？」

「ううん、違うよ。あの子マザコンなの」

「ふくん、千尋はあの子が羨ましいの？」

「違う！僕は小町ちゃんがいるからいいの！」

僕はあの子と違う！僕は小町ちゃんと新兄がいてくれればいい！ママなんかいない！

「そっか。千尋は強い子だね、でも…」

「でも？」

「僕は千尋の母親代わりでもあるからなあ。僕ちよっと寂しいな」

「…小町ちゃん寂しいの？」

「うん、すごく寂しいよ」

「僕…やっぱりマザコンになる」

「よかった、僕今すごく嬉しいよ」

「本当！？」

「うん、本当」

ただの家族ごっこなのはわかってた。浅羽家のみんなは、小町ちゃん

んに拾われた人たちの集まり。小町ちゃんは、小さい頃に両親を亡くしてる。

同じく両親のいない僕達の痛みや悲しみがわかるから、小町ちゃんは僕達に優しくしてくれている。小町ちゃんがいてくれるから、僕は両親がいなくなたって平気なんだ。あ、両親がいた頃の記憶なんて、まったくないんだけどね…。両親がいた頃の証拠はあるんだよ？ もっとも、あんまり良い扱いはされてなかったみたいだけど。

「帰ろう、千尋」

「うん！」

「帰り何か買っていこうか？」

「新兄の分もね！」

「そうだね」

お母さんと一緒にいるって、こんな感じなのかな？ あの子もこんな風に感じてるのかな？

「悠太、帰るわよ」

「うん！ ママ！」

これが僕と悠太の、最初の出会い。悠太が浅羽家にやってくるのは、十年後の春。丁度、高校二年生の始業式の頃。

悠太が浅羽家の問題児となって君臨することを、今はまだ、誰も知らない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8950a/>

浅羽家の日常

2010年10月8日15時10分発行